

● 总策划／许小明

总主编／皮细庚 主编／张建华

新编

日语教程

6

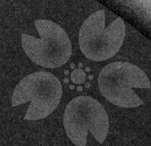
にほんご

华东理工大学出版社



新编(917)日语教程

主编 皮细庚 总策划 许小明



にほんご

新编

日语教程

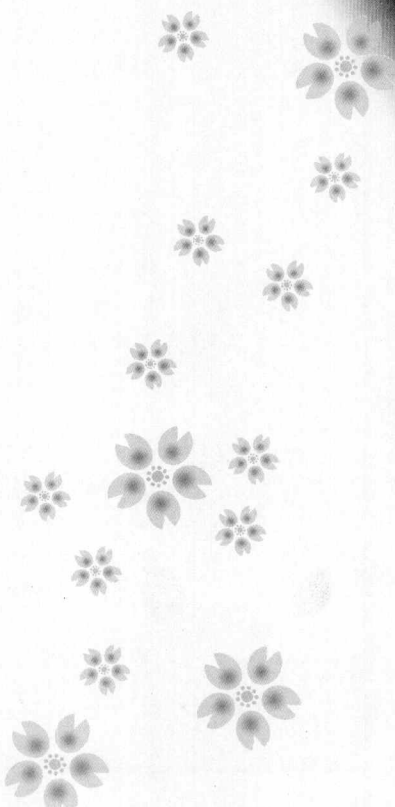
总策划\许小明 总主编\皮细庚 主编\张建华



华东理工大学出版社

6

ISBN 7-311-03701-1
定价: 39.00元
CIP 数据
I. 日...
II. 皮...
III. 日...
IV. H319.4
中国版本图书馆CIP数据核字(2007)第101001号
2007年10月第1次印刷
2007年10月第1次印刷
787mm×1092mm
1/16
31.15
32开
32开



图书在版编目(CIP)数据

新编日语教程 6/皮细庚总主编;张建华主编. 上海:华东理工大学出版社,2007.10(2008.2重印)

ISBN 978-7-5628-2157-1

I. 日... II. ①皮... ②张... III. 日语-教材 IV. H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2007)第 150584 号

新编日语教程 6

总策划 许小明

总主编 皮细庚

主 编 张建华

顾 问 / 许 伟

策划编辑 / 陈 勤

责任编辑 / 苏 靖

责任校对 / 华 校

封面设计 / 戚亮轩

插 图 / 赵 蓉

出版发行 / 华东理工大学出版社

地 址:上海市梅陇路 130 号,200237

电 话:(021)64250306(营销部)

(021)64252717(编辑室)

传 真:(021)64252707

网 址:www.hdlgpress.com.cn

印 刷 / 江苏句容市排印厂

开 本 / 787mm×1092mm 1/16

印 张 / 21.25

字 数 / 526 千字

版 次 / 2007 年 10 月第 1 版

印 次 / 2008 年 2 月第 2 次

印 数 / 8051—13070 册

书 号 / ISBN 978-7-5628-2157-1/H·656

定 价 / 39.50 元(赠 MP3 光盘)

(本书如有印装质量问题,请到出版社营销部调换。)

本书编委会

总 策 划 许小明

总 主 编 皮细庚

主 编 张建华

副 主 编 林 彬

文 俊

许小明

前言

本套教材共六册,主要针对日语专业的学生、社会日语培训人员、日语爱好者等多种人群。从零起点开始,第一册学完达到日语能力考试4级程度、J. TEST考试F级程度;第二册学完达到日语能力考试3级程度、J. TEST考试E级程度;第三、四册学完达到日语能力考试2级程度、J. TEST考试D、C级程度、日语口译中级阶段;第五、六册学完能达到日语能力考试1级程度、J. TEST考试B、A级程度、日语口译高级阶段。

教材在编写上注重培养学生学习日语的方法和兴趣,通过对日本文化、风土人情等全方位的了解,达到全面学习日语的目的。在通过日语考试的同时,更注重日语实际应用能力的提高,培养学生的开口能力。第一册学完,熟练掌握日语的寒暄语;第二册学完,掌握基本的日常会话;第三册学完,能够进行日常交流;第四册学完,掌握日常办公室用语;第五册学完,掌握流利的会话和日语商贸用语;第六册学完,掌握日语口译和笔译能力,达到流利的日语交流和应用能力。

第一、二册教材主要针对零起点学习者,编写时以营造轻松愉快的学习课题为主线,让初学者快速融入日语学习的角色里,学完两本教材能达到日语3级程度。

第三、四册教材的导入部分、日语会话和阅读部分均用日语编写。这样可以使学习者沉浸在全日语的环境中,扎扎实实提高自己的阅读理解能力。另外,每课的练习不同于传统教材,而是采用日语2级能力考试模拟的方式,并且将每课单词、文法、阅读全部融入练习中,让学习者能及时巩固所学内容。

第五、六册的编写是在第三、四册教材的基础上,将日语能力考试、J. TEST考试、口译考试办公礼仪和商务口语全部融合在一起。让大家能学到更加地道、流利的日语。同时在练习部分将1级能力考试、口译考试、J. TEST考试部分融入每课练习中。

本套教材是以中国女孩王小华为主人公展开故事情节的,这样使学习内容变得更加生动形象。教材中的出场人物都被漫画化,使得每课内容不再枯燥,同时将知识性、趣味性与实用性全面结合在一起。在学习本套教材的同时,可以真切体验丰富多彩的日本留学生活。

第五、六册的编写,保持了1—4册的编写风格和追求目标,并注意与第三、四册教材的衔接,从而在选材时注意把握好文章的难易程度以及内容组合。在此基础上,五、六册教材尽量追求课文内容的题材多样化,选择可读性强、语言表达规范的文章。文章的内容涉及日

本的文化、文学、社会、科学和经济等不同领域,力求使学生通过这两册教材的学习,在原有的基础上进一步提高日语实力,并对日本社会有更多的了解。

第五、六册教材各由 16 课组成。每课分别设有“课文、单词、基本文法、句型、会话、读解文、本文练习、课外练习”等八个部分。

语法学习和句型学习部分主要用来说明课文中出现的、在日语能力 1 级考试中又经常遇到的语法现象和句型,适当配有例句以供学习者参考。阅读文部分主要是以日语能力 1 级考试的长篇阅读理解文为基础,大部分配有练习。会话部分以王小华从事商务工作在办公室里所涉及到问题为场景,通过该部分的学习,读者可以学习到地道的商务日语口语。练习由两大项组成,一项是围绕课文编写的问题,另有一篇作文和一篇演讲题目;另一项是以日语能力 1 级考试为中心的文字词汇和语法练习。

附录里收录了每课的课文和阅读文中所出现的单词,并配有读解文和练习的文字和语法部分的参考答案。

我们希望本教材可以帮助读者有效地提高日语水平,同时也进一步提高应对日语能力考试以及其他各类考试的应考能力。

本教材的编写得到了上海外国语大学、上海工商外国语学院、中国 J. TEST 事务局的大力支持和协助,得到了新世界教育集团诸位日语专家的大力支持。在此,谨向对本套教材的编写给予过帮助的单位和个人致以谢意。书中不妥之处在所难免,诚请同行专家和广大读者不吝指教,以便今后进一步完善。

编 者

2007 年 9 月

目次

第17課	立ち読みの楽しみ	1
	単語	4
	基本文法	7
	文型	9
	会話 派遣社員の採用	10
	読解文 玄関扉	11
	本文練習	14
	課外練習	15
第18課	ピーターラビットとナショナルトラスト	19
	単語	22
	基本文法	27
	文型	30
	会話 取引先からの電話	32
	読解文 基本現代経済学	33
	本文練習	35
	課外練習	35
第19課	「目の人」と「声の人」	39
	単語	42
	基本文法	46
	文型	48
	会話 取引先からの注文	50
	読解文 豊かさとは何か	51
	本文練習	53
	課外練習	54
第20課	風景から学んだこと	58
	単語	60
	基本文法	63
	文型	65
	会話 日本プロジェクト	67
	読解文 自然保護への問いかけ	68

	本文練習	72
	課外練習	72
第21課	サーカスの馬	76
	単語	79
	基本文法	82
	文型	84
	会話 入金	86
	読解文 母となる風と父となる時化	87
	本文練習	90
	課外練習	91
第22課	青春について	95
	単語	99
	基本文法	102
	文型	105
	会話 社長インタビュー	106
	読解文 社会のなかの科学、科学にとっての社会	107
	本文練習	110
	課外練習	110
第23課	自転車の練習	114
	単語	116
	基本文法	118
	文型	120
	会話 新しい旅行商品	121
	読解文 文章読本	122
	本文練習	125
	課外練習	125
第24課	ベンチ	129
	単語	132
	基本文法	133
	文型	135
	会話 新しい取引	136
	読解文 小さき者へ	137
	本文練習	140
	課外練習	140

第25課	人間を作ることば ことばを作る人間	144
	単語	147
	基本文法	149
	文型	152
	会話 新人研修セミナー	153
	読解文 俳句の楽しさ	154
	本文練習	156
	課外練習	157
第26課	「ありがとう」と言わない重さ	161
	単語	164
	基本文法	166
	文型	168
	会話 新入社員の面接	169
	読解文 かけがえのないもの	170
	本文練習	172
	課外練習	172
第27課	美を求める心	176
	単語	181
	基本文法	182
	文型	185
	会話 新商品のパッケージデザイン	187
	読解文 テレビ出演	187
	本文練習	191
	課外練習	192
第28課	クジャクヤママユ	195
	単語	200
	基本文法	204
	文型	207
	会話 新商品の完成版	208
	読解文 日本人の心と家	208
	本文練習	211
	課外練習	212
第29課	「余暇」のすすめ	216
	単語	220
	基本文法	222

文型	226
会話 新商品開発	227
読解文 楽しい授業	228
本文練習	230
課外練習	230
第30課 風の旅	234
単語	237
基本文法	240
文型	243
会話 新製品の開発	244
読解文 素顔同盟	245
本文練習	248
課外練習	248
第31課 「アイムソーリー」	252
単語	255
基本文法	258
文型	262
会話 研修のプログラム	262
読解文 何でもあり個人主義	263
本文練習	267
課外練習	267
第32課 トロッコ	271
単語	274
基本文法	276
文型	279
会話 遊休地の活用	280
読解文 知的生産の技術	280
本文練習	282
課外練習	283
附录	
一、本册单词索引	287
二、五、六册一级语法索引	309
三、补充词汇(一级)	312
四、参考答案	324

第 17 課 立ち読みの楽しみ

曾野綾子

その夜は、越前大野に泊まることになっていた。

翌日、九頭龍筋のダムを見学するためである。九頭龍川の水は、今や痛々しいほど、ダムのために使われている。私が行こうとしているのは西勝原という所に作られている重力式ダムであった。出力四万八千キロワットという発電力はそう大きなものではないけれど、そのころ、私は憑かれたようにダムを見て歩いていたのだった。

私は宿で一休みするとふらふらと午後の大野の町へ出て行った。にぎやかな本通りへ出ようとする直前の所で、私は一軒の店の前で足を止めた。

それは地方の小都市にいくらでもありそうな衣料品屋であった。化繊のかすりの農作業衣や、軍手、子供用のはんてん、ブラウスやセーターなどを売っている。

私の目にとまったのは、茶色いごくありふれた男物のジャンパーであった。前が隠しボタンになっていて、工事現場の男たちがだれでも着ているものである。

大中小とあるというので、私は中を着てみた。すると、手が半分以上隠れてこっけいなかっこうになった。

小サイズでも、衿はまだ長すぎた。しかしそれはカフスを折っておくことでなんとかがまんできた。

「あんたがそれ着なはるんか。」

おばあさんは驚いたように言った。

私は前から現場へ行くたびに、この手のジャンパーが一つ欲しいと思っていたのだった。それは汚れも目だたず、ほこりよけにもなり、何よりだらけた感じがなくて、女が男の世界に入ることの当惑を少しでも和らげてくれるものだった。

「それ着て、どこへ行きなはるんにゃろ。」

「勝原。」

「ああら、おっそろしや。」

大野市内の人々から見れば、川筋を奥へさかのぼったダム工事の現場などは、鬼の住みかとも思えるのだろう。

私は、五百六十円なりのジャンパーを抱えて、表通りに出た。そしてそこで、私の小さな物語の主人公に出会ったのだった。



それは、この町にしてはかなり大きな本屋だった。薬屋はあっても、いい本屋のない町はかなり多い。その本屋は少なくとも、東京の場末の本屋くらいの棚の面積がありそうなので、私は誘われるように中へ入って行った。

ちょうど、中高校生の学校のひけ時に当たるのか、店の中はかなりこんでいた。

私は書棚を端から端までながめて歩いた。わざわざ買わなくても、と思う本にためらい、旅先で書類が増えたので、文庫本にしようか、などとも思った。

店の正面の半畳ばかりの帳場には、度の強い近眼鏡をかけた店の主人が座っていたが、たまたま私が、彼の席から最も近い距離まで来たとき、私は彼の突然のどなり声に、心臓の動悸がしばらくやまなかったほど驚いたのだった。

「立ち読みせんな！」

と彼はどなったように聞こえた。しかしそれはまさに落雷のような声だったので、私は、一瞬、呆然と足を止めた。もちろんそれは私にむけてどなられたものではなかった。彼の一喝によって、入り口近くにいた数人の中学生たちがわいわいと逃げて行った。女子高校生たちは、今も昔も同じで、そういうとき、すましていた。中には、本当に立ち読みをしていた者もあるのだろうが、女はずうずうしくしらを切ることもできるのか、それとも本当に、何かを買おうとしていたのか、彼女たちは動かなかった。

驚きがおさまったとき、わたしは、「福井地方の民家」という地方の郷土史家の書いたものらしい本を一冊見つけた。この種の本は東京でなかなか見つけにくい。私はそれを例の主人が座っている帳場へ持って行った。そしてお金を払うとき、私はかれが、近視というより、弱視に近いことを知ったのだった。

かれは本の定価を見ると、ページから目を一〇センチくらいの距離まで近づけた。そして、百円札のおつりを出すとき、それをあまりに顔の近くで数えたので、彼はお札を食べてしまうのではないかと思えたほどだった。

やがて私は、入り口の近くまで来て、さっき追い出された中学生や高校生が立ち読みしていた雑誌類の山を見つけた。そのあたりは漫画本も多かった。ふと私も漫画を一冊買って宿に帰ろう、と思った。漫画本なら、旅の一夜に読み上げて捨てていけばいいのである。

私が、漫画を選ぼうとしたときであった。

私の隣に、背の低い中学生が入って来た。彼が店を入るとき、わざと顔を隠すように帽子を目深にかぶり直したのを私は見ていた。

驚いたことに、かれはわき目もふらず、私のそばまで来ると——というより、私の体の陰にぴったり隠れるように立つと——少しも惑わずにある少年週刊誌のある漫画のページを開けた。そして、身も心も吸い取られそうに夢中で読み始めた。

少年が帽子のひさしを引き下げたのも、私のわきにぴったり寄り添って立ったのも有名な雷おやじの癖を知っていて立ち読みをやましく思っているからに違いない。

私はなんとなくかれを守ってやらねばならぬような気がした。本屋にとって、立ち読みをされることは確かに不都合なことではあろう。しかし、なぜか、私の心に、本は隠れて読むほうが楽しいという、幼いときからの信念のようなものがあるのだった。私は母から読んではいけないと言われている本を、試験の前日などに、酔うように読みふけた。大人が読むことを強要するだけで、もう本からは心躍るような魅力が抜けてしまいそうな気がした。

私の左側に立っているこのこましゃくれた子を、その品の悪そうな漫画を読む間、なんとしてもあのおやじから守ってやらねばなるまい、と私は決心した。

幸いなことに、そのとき店には電話がかかってきた。近眼の主人は愛想の悪い返事をしていたが、相手は何かしきりに勧誘しているらしく、おやじはなかなか電話を切れないでいた。それが終わるとまもなく、赤ん坊を背中におぶった母親が、問題集のことで何かくどくどと、交渉しに現れた。彼女も教育ママの一人であるらしかったが、彼女が帳場の前に立ちふさがっているおかげで、私たちは店の主人の視野に入らないでいられた。

彼女が帰ったとき、再び危機が来た。私は主人の目がこっちを向くのに気がついた。私はとっさに決心すると、漫画本の一冊を取って帳場のほうに歩き出した。私が本を買っている間だけでも、あの中学生は、立ち読みを続けられるだろう。

しかし、私が歩き出したとたん、その中学生も私の後を追うようにつかつかと帳場のほうへ歩いて来た。

私が本をお金とともに差し出したとき、中学生は、店の主人に向かって、

「ただ今！」

と言った。

「恒助！」

店の主人は、ぎょろりと目を上げて少年を見た。

「お母ちゃんが、PTAに出かけたで、おやつは茶筆筒の中にあると。早う食べて父ちゃんに代わって店番せえ。」

少年は、うん、とも、ふんともつかない音をたてながら奥へ消えた。

私は本の包みを持って店を出た。道に桜の花びらが散っていた。

私は笑い出したかった。あの子が、用心深く近視の父親に見つからないように、帽子をかぶり直しながら、店へ入って来る姿がいまだに目に残っていた。かれが、雑誌の山の中から、これだと思うものを、あっさりと引き抜いたその手つきのあざやかさも、その店の子なればこそである。

それでもなお、立ち読みをやめない、というところが面白い。おそらくかれにとってみれば、勉強机の前で読むよりも、友達がやるように、いつどなられるかしれないというスリルを味わいながら、店先で読むほうが楽しいに違いないのだ。

私は駅近くまで歩いた。静かな者が山間の町に熟している。そろそろ日も暮れかかっていた。

私の泊まっているのは素朴な商人宿である。しかし清潔で、もてなしも暖かい。今夜の夕食に何が出るかも急に楽しみになってきた。

私はもと来た道をもどり始めた。

すると再び、私はさっきの本屋の前を通りかかった。

はげたペンキの看板が、こんどは、「勉強堂」とはっきり読めた。

勉強堂か！漫画など読むな、ということか！

店先には、再び、数人のほこりくさい学生たちが群がっていた。今度は、私は無責任に、あるドラマを内心待ち受けていた。店のおやじがまた、あの眼鏡の奥から、

「立ち読みはやめんか！」

とどなる場面である。

しかし、私の期待は、また別のほうからものの見事にくつがえされた。店頭までちょこまかと出て来て彼らを追い払ったのは、ほかならぬさっきのこの家の息子だったのだ。

「立ち読みしたらあかん！」

かれは手で、仲間を追い払うようなしぐさをした。数人は抗議をし、何人かはあきらめたように店から出て夕暮れの町に消えて行った。

私はその勉強堂のこましゃくれた中学生がなんとなく好きになったのである。父親の目を盗んで自分も立ち読みをし、父から命じられればまた、友達が立ち読みをするのを追い払う。

つじつまも合わなければそこに一貫した理屈のつけ方もない。けれどほんとうは、私もまた、あれに近い生き方をしている。むしろ彼の表現のほうがみごとで正直だったのではないか、と私は思ったのだ。

あれからもう、二年近くになる。今行っても、あの中学生はもう背が高くなっていて、私には、分からないに違いない。

単語

立ち読み(たちよみ)	[名・サ変]	〔本屋の店先で〕売品である本や雑誌を買わずに、立ったまま読むこと。/(在书店不买书)站着阅读
越前(えちぜん)	[名]	旧国名の一つ。ほぼ福井県中・北部に相当。/越前
九頭龍川(くずりゅうがわ)	[名]	福井県北部を流れる川。/九头龙川
痛々しい(いたいたしい)	[形]	肉体的・精神的な打撃を受け、落ち込んだように見える様子に、心から同情を覚える状態。/非常可怜的
出力(しゅつりょく)	[名]	発電機・変圧器やエンジンなどから取り出せるエネルギーの量(最大仕事率)。/输出功率
キロワット	[名]	〔kilowatt〕国際単位系における仕事率(電力)の単位で、千ワットを表わす〔記号 kW〕。/千瓦
憑く(つく)	[自五]	(だれに)― 心霊・魔物などがその人の精神を支配し、異常な言動をさせる。/(妖狐等)附体
一休み(ひとやすみ)	[名・サ変]	〔仕事の途中で〕少し休むこと。/休息一会儿
ふらふら	[副]	しっかりした目的を持たないで行動することを表わす。/糊里糊涂, 恍恍惚惚
本通り(ほんどおり)	[名]	町なかの主要な道。表通り。メイン・ストリート。/主干道
一軒(いっけん)	[名]	一戸。/一栋
衣料品(いりょうひん)	[名]	衣服(の材料)。/衣料

化繊(かせん)	[名]	「化学繊維」の略。/化纤
かすり	[名]	所々かすったように文様を織り出した織物または染文様。/ 轮廓飞白的花纹
軍手(ぐんて)	[名]	太い白もめで編んだ作業用手袋。〔もと、軍隊用であったことから〕/劳动手套
はんてん	[名]	羽織に似て胸ひもが無く、襟の折り返らない上っぱり。/短上衣
ありふれる	[自一]	どこにでも有って、珍しくない。/常見的
男物(おとこもの)	[名]	男性が使うように作られた品物。紳士物。/男士用品
ジャンパー	[名]	運動や作業用の上着。/宽松夹克衫
こっけい	[形動]	まともな言動ではなくて、人の失笑の対象になる様子。/诙谐,滑稽
裾(ゆき)	[名]	〔和服で〕背中の中心の縫い目から袖口(ソデグチ)までの長さ。/袖长
カフス	[名]	ワイシャツ・婦人服のそで先(の折り返し)。/袖口
あんた	[代]	「あなた」の口頭語形。/你
～よけ	[接尾]	～を防ぐもの(こと)。/防,挡
だらける	[自一]	何かしてやろうという、緊張した気持が無くなる。/偷懶
当惑(とうわく)	[名・サ変]	急に解決すべき難題に出あったり板ばさみになったりして、決断に迷うこと。/困惑
和らげる(やわらげる)	[他一]	穏やかな状態にする。/使缓和
川筋(かわすじ)	[名]	川が流れている所。川に沿った土地。/水路
すみか	[名]	住む(べき)所。すまい。/住处
表通り(おもてどおり)	[名]	市街を構成する主要な通り。大通り。前通り。/主要街道
場末(ばすえ)	[名]	都市の中心部から離れた(ごみごみした)所。/关厢,城边
ひけ時(ひけどき)	[名]	〔役所・会社・学校などで〕仕事(勉強)が終わって、そこを出る時刻。/下班时刻
文庫本(ぶんこぼん)	[名]	小型のシリーズによる、名著(普及の望まれる本)の廉価版(の名)。/文库本,袖珍本
帳場(ちょうば)	[名]	〔商店・宿屋などで〕帳付・勘定などをする所。/帐台,账房
近眼鏡(きんがんきょう)	[名]	近眼の人がかける、凹レンズの眼鏡。/近视眼镜

動悸(どうき)	[名]	ふだんより強い、心臓の鼓動。/心悸
やむ	[自五]	それまで続いて来た勢いが、そこで終りになる。/停止
落雷(らくらい)	[名・サ変]	「雷が落ちる」意の漢語的表現。/落雷
一喝(いっかつ)	[名・サ変]	びっくりするような大きな声できつくしかりつけること。/大喝一声
わいわい	[副]	大勢がそれぞれ騒がしくものを言い合うさま。/吵吵闹闹
ずうずうしい	[形]	普通の人なら遠慮してやらない事を、平気でやる様子。/厚顔无耻的
しらを切る(しらをきる)	[連語]	知らぬ顔をする。/假装不知道
弱視(じゃくし)	[名]	視力の衰えたこと(目)。先天的に視力が弱いこと(目)。/弱視
読み上げる(よみあげる)	[他一]	(難解な本や大部のものを)読み終える。/朗读,读完
目深(まぶか)	[名]	〔帽子などを〕目が隠れるほど深くかぶる様子。/(把帽子)压低(到几乎遮住眼睛)
わき目もふらず(わきめもふらず)	[慣]	よそ見もせず。専心その事につとめるさまをいう。/一心一意
吸い取る(すいとる)	[他五]	吸い出し(込ませ)て、取る。/吸取
ひさし	[名]	帽子の、額の上に突き出た部分。/屋檐,帽檐
引き下げる(ひきさげる)	[他一]	〔地位・基準などを〕低くする。/降低,拉下
わき	[名]	〔人間のからだの〕胸の側面で、腕のつけねの下側の部分。/旁边,侧面
寄り添う(よりそう)	[自五]	相手のからだに触れんばかりに近くに寄る。/贴近,挨靠
やましい	[形]	良心のとがめが有る様子だ。うしろぐらい。/内心负疚的
心躍る(こころおどる)	[自五]	期待のあまり胸がどきどきする。/心情激动
こましゃくれる	[自一]	〔子供が〕ませていて、いかにもおとなびた差し出がましい言動をする。/(小孩儿举止像大人)卖弄小聪明
近眼(きんがん)	[名]	「近視(眼)」の日常語的表現。ちかめ。〔先見の明が無いこと(人)の意にも用いられる〕/近视眼
愛想(あいそ)	[名]	人に接して示す好意や愛らしさ。/待人亲切
勧誘(かんゆう)	[名・サ変]	(他の人と同じように)そうしてはどうかと相手の気持ちを動かすこと。/劝诱

赤ん坊(あかんぼう)	[名]	「赤子(アカゴ)」の口語的表現。〔おなかの中の子供の意や、世間知らずの意にも用いられる。後者の例、「まだー(も同然)だ」赤んぼ。/ 婴儿
くどくど	[副]	相手がうんざりするのも構わず、同じ注意をしつこく繰り返したり、代りばえのしない説明を長長と行なったりすることを表わす。/ 冗长的
立ちふさがる(たちふさがる)	[自五]	何かのはざまや通路に立って、そこを通り抜けよう(から入ろう)とする人のじゃまをする。/ 挡住
つつかつか	[副]	遠慮なく(ためらわずに)進み出ることを表わす。/ 毫无顾忌地出入
ぎょろりと	[副]	目を丸くする(して何かを見詰める)ことを表わす。/ 瞪了一眼
茶箆筥(ちゃだんす)	[名]	茶器・飲食器などを入れておく、棚のある家具。/ 茶柜
店番(みせばん)	[名・サ変]	店に居て、お客が来るのを待ったり、来た客の応対などをしたりすること(人)。/ 看守商店(的人)
用心深い(ようじんぶかい)	[形]	十分に気をつけ(て)いる様子。/ 小心周到的
引き抜く(ひきぬく)	[他五]	引っ張って抜き取る。ひっこぬく。/ 拔, 抽
手つき(てつき)	[名]	何かをする時の手の動かし方。/ 手势
くつがえす	[他五]	普通とは反対に、裏を表にする。/ 打翻
店頭(てんとう)	[名]	「みせさき」の意の漢語的表現。/ 铺面, 门面
ちょこまか	[副]	〔口頭〕じっとしていることが出来ないで、しょっちゅうこうさく動き回することを表わす。/ 焦躁不安地到处转来转去貌
追い払う(おいはらう)	[他五]	じゃまな(うるさく寄って来る)ものを追って、そこをどかせる。/ 赶走
目を盗む(めをぬすむ)	[慣]	人に見つからないようにひそかにする。/ 避人耳目
つじつま	[名]	〔上下左右、うまく合うべき着物の縫い目の意〕一貫すべき、物事の初めと終り。/ 道理, 逻辑

基本文法

1. ～にしては→～にして(一級)

【原文】それは、この町にしてはかなり大きな本屋だった。薬屋はあっても、いい本屋のない町は多い。

【接续】名詞十にして